



北海道医歌人会詠草

足摺岬

札幌 古屋 統

遠き日の映画の記憶自殺者の死場に適う足摺岬
自殺への道連れならず妻を率て五十二年前の足摺の旅
そぶり見れば自殺を意図の他所者は凡そ判ると地元の人ら
自殺企図疑はしきに声掛けも容易ならずと嘆く声あり
命ありて妻と再び仰ぎ見る足摺岬の白き灯台

中尊寺詣で

美唄 吉村 誠治

縁あり高位の僧に案内され中尊寺詣でる幸を享けたり
葉の縁増す雨上がりの道来て本堂へ進む杖つきながら
革まりし金色堂に詣でたり藤原三代の国風の栄華
思ほえず秘仏御開帳に巡りあひまず手を合はす東北の復興
清衡の仏国土への熱き心こつに顕れ世界遺産となる

ヤドリギ

札幌 浜島 泉

基の木の葉しげる前の枝股にヤドリギ稔り黄色の小粒
雪の泥被ぶる土手の枯れ草を雨風濯ぐ新芽も生ひつ
うす曇り雪どけのバス停留所待つ若き人フレッシュユース
暖気にて白斑の山恵庭岳半月前は白銀なりし
雪溶けて乾くヨモギの枯れ莖葉芽ぶきの色が隠れつ見えつ

グリーングリーン

釧路 児玉 昌彦

降りしきる春雨にめげず早朝の林を満たす小鳥のさえずり
美しき五月となればハイネの詩口ずさみつつ若き日想う
ピカピカの新入生の二人連れ照れる男の子追う女の子
新緑のしとねに巨体横たえる老木の示すこの存在感は
エゾリスの一目散に駆けるさまシャッターチャンス一枚を撮る

春

旭川 稲積 文子

冬未だ去らぬこの地も陽が高くゆっくりと春は訪れるらし
雪解けが終らぬうちに早々と葉もなき枝に蕾の牡丹
眼科医院を開設して五十年世界一周はまだ夢のまま
子離れと吾が心に言い聞かせ言葉を開き空しき日々
彼の人と語らう如く繰り返し繰り返し読む歌集の行間

夏近し

江別 三宅 浩次

夏近しスツピンの脚見よがしに若き娘ら行く緑陰の風
リラ冷えの日々過ぎ去りて春の香のわずかに残る夏の兆しか
久々の晴となりたり眩しさに思わず眉を擧めて歩む
若き葉の緑は日に日に濃さを増し夏色に染まる力を感じず
夏雲の強さに魅かれ仰ぎ見る光眩しき空の青さよ

後悔先に立たず

札幌 山口 康徳

(It is no use crying over spilt milk)
廃炉には数億円の巨費要るといふのち臍悩まぬよう慎重にせよや
おくれたる春の出現待ちわびて双手をば挙げ喜色破顔す
遅春来たり蛇の松明目をさまし藪の隙縫ひ爛々と睨る
カンボジア船「タイガン」に火災出現すこれ国民に注意喚起す天の声なるや
待ちわびし初夏のおとなひ延齡草われらが時代と察歌発散